NIE実践報告

1．タイトル：☆情報とわたしたちの生活とのつながりについて考えよう

2．学校名

新潟県上越市立高田西小学校

3．実践者名（代表者名）

村井　直美

4．学年

第5学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　32人

6．単元（本時の学習課題）名

わたしたちの生活と情報　～　情報がもつよい点や問題点について考えよう　～

7．目標（狙い）

スクラップや新聞記事をもとに、生活を取り巻く情報のよい点と問題点について話し合い、様々な情報に関心をもつことの大切さや責任ある発信の在り方について考える。

8．評価の視点

新聞の有用性について考える。
様々な情報に関心をもつことの大切さや責任ある発信の在り方について考える。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「わたしたちの生活と情報」(社会)　12時間　(本時　6/12)

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

(1)グループの友達とお気に入りのスクラップを紹介し合う。
(2)新聞を読んだり、スクラップをしたりしてよかったこと、自分の役に立ったことを書く。
(3)記事「K･Yってだれだ」から朝日新聞サンゴ記事ねつ造事件を知り、問題点について考える。
(4)新潟日報上越支社の新聞記者から報道する側の思いや願いを聞く。
(5)今日の授業の感想を書く。
(留意点)
･グループでのスクラップ紹介の後、担任のスクラップを紹介し、新聞により4コマ漫画の作者、読者、記者がつながっていることを伝える。
･3つの記事「サンゴを汚したK･Yってだれだ」「落書き、ねつ造でした」「弁明の余地ない行為」を合わせると文章量が多いので、見出しから記事の内容を推測しながら意見交換を行う。
･新潟日報の記者に、授業の感想、新聞作りに対する思い、発信者･受信者としての在り方について話していただく。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

過去に捏造記事があったことを知り、児童は驚きを隠せなかった。しかし、新聞記者の話を聞き、新聞や作文を書く時に正しいことを書くようにしたい、はっきりとした事実が分からないときは、他の新聞やインターネットでも調べてみたいなど、受信者･発信者としての考えをもつことができた。

12．成果と課題

本時は、1校時の授業としては内容が盛りだくさんであった。スクラップ紹介を通して児童が感じた新聞のよい点をもっと丁寧に扱い、多様な意見をより引き出すべきであった。また、捏造記事は児童にとって情報量が多すぎ、自分の考えをもったり、整理して話したりする間もなく授業を進めてしまった。さらに、折角、新聞記者に来校していただけたのに、児童との交流や質疑の場を取ることができなかった。しかし、単元全体を通して、児童は新聞記事に興味を持ち、新聞を読み比べたり、新聞記事から考えたりすることに大変前向きであり、意欲的に学習をしていたことから、新聞活用により授業が活性化することができたと感じている。